

画像生成AI 導入検討レポート

ローカル実行かクラウド利用か

架空の依頼に対する調査レポート制作例 — 全20ページ

2026年9月21日(改訂版)

しろかけごはん



手元PC



クラウド

ページ

20

一次情報

18件

費用の分岐点

月224枚

10章を、意思決定の流れに沿って読み進める

1	結論	段階導入と判断分岐	6	費用試算	50/300/1,500枚と224枚
2	調査設計	範囲・方法・限界	7	リスク	価格・障害・安全・為替・規約
3	選択肢	手元・GPUレンタル・生成サービス	8	実行手順	最初の1週間
4	比較	8観点と商用規約	9	出典	一次情報を中心に18件
5	品質	160モデルのElo比較	10	確認レベル	出典の確認レベルを3段階で整理

結論

まずクラウドで品質を確かめ、量産条件がそろった段階でローカルを検討する。

1

結論

段階導入と判断分岐

推奨は「段階導入」—— まずクラウドから始め、規模拡大後に手元PCを検討する

1 初期費用の差が大きい

クラウドは登録のみで初期費用ほぼゼロ。
手元PC(想定機種: RTX 5060 Ti 16GB)は
2026年9月時点の実勢価格で約10.7万～
26.9万円(半導体メモリ高騰の影響、7章)
[出典15]

手元PC

約10.7万～26.9万円

クラウド

0円

2 品質は今のところクラウドが上

手元GPUで動くモデルは、第三者ランキン
グ(160モデル掲載)でクラウド最上位から
300ポイント以上下に集中(5章)[出典8]。
画像内の日本語文字入れ精度は信頼できる
一次情報が見つからず、着手前に少量の試
作で確かめる

300pt+

クラウド最上位との差

3 運用の手間が違う

手元PCはモデル導入・障害対応に技術知識
が必要。
クラウドの生成サービスはプロンプトを送
るだけで完結(7章)

手元PC

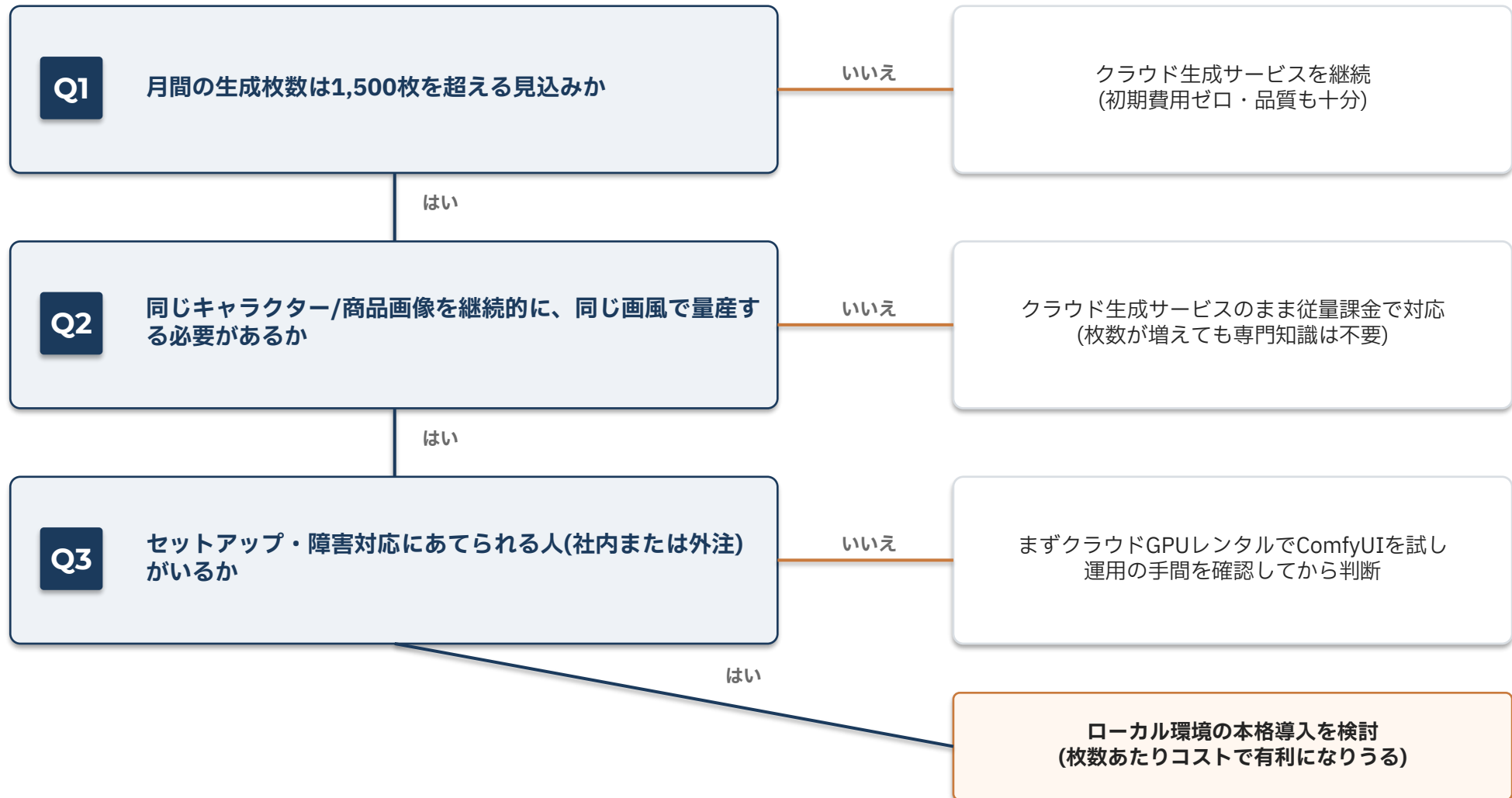
自前

クラウド

送るだけ

結論が変わる分岐点 —— 月間生成枚数がおおむね1,500枚を超え、かつ同一キャラクター/商品画像を継続的に、同じ画風で量産する場合は、手元PC側の枚数あたりコストが有利になり得る(次ページで判断手順を図解)

3つの質問で「クラウド継続」か「ローカル検討」かを判断する



月1,500枚ペースならGPU初期費用は3.4～8.5か月で回収できる計算(6章)。
それでも段階導入を推すのは、この回収計算に品質差(5章)と運用・障害対応の人の時間(7章)が入っていないため。

2-4

調査設計・選択肢・比較

調べ方の限界を示したうえで、3つの選択肢を同じ基準で比べる。

2

調査設計

範囲・方法・限界

3

選択肢

手元・GPUレンタル・生成サービス

4

比較

8観点と商用規約

架空の依頼を起点に、一次情報中心で調査した(自社実測ではない)

架空の依頼

小さな制作会社が、画像生成AIを手元のPCで動かすか、クラウドのサービスで使うかを決めたい。
LP・チラシ・SNS投稿用の画像を、月に数十枚～1,000枚台のペースで作ることを想定している

あたる情報源: 各サービス・モデルの公式ドキュメント/ライセンス原文、価格の公式ページ、GPU価格比較サイト、第三者品質ベンチマーク(ブラインドの人間投票)。

すべて2026年9月21日にアクセスして数値を確認(出典は各数値のそばと巻末の出典一覧)

調査の限界

- 実機での生成時間・消費電力は未測定。手元PCはRTX 5060 Ti 16GB 1機種に統一しているが、生成時間はコミュニティ報告の目安値(自社実測ではない)
- GPU実勢価格は2026年の半導体メモリ高騰で出典内でも幅が大きく、確定額として扱えない(7章)
- 手元で動く公開モデルの日本語文字入れ精度について、信頼できる定量比較は見つからなかった(5章)
- 画像生成AIを指定したクラウドソーシング案件の規模は今回調査していない
- 各社の利用規約・ライセンスは条文の該当箇所を示すに留める。本レポートは法的助言ではない

本レポートの数値は、3段階の確認レベルを区別して扱う



一次情報で確認



二次情報の一致で代替



未確認・仮定と明記

手元PC・クラウドGPUレンタル・生成サービスの3択で比較する

A. 手元のPCで動かす



自分のPCにGPU(想定機種: RTX 5060 Ti 16GB)を用意し、ComfyUIなどの無料ソフトでモデルを動かす。
データもソフトも手元で完結

月1,500枚: 約42円

電気代のみ

B. クラウドGPU



自分のPCにGPUを積まず、クラウド事業者のGPU(想定機種: RunPod RTX4090)を時間単位で借りて、Aと同じソフトを動かす

月1,500枚: 約1,334円

時間課金

C. 生成サービスをそのまま使う



GoogleやOpenAIなどの画像生成APIやMidjourneyのようなサブスク型サービスにプロンプトを送って画像を受け取る。
モデルの管理は事業者側が行う

月1,500枚: 約31,557円

従量課金

AとBは異なる機種を例にしている。
Aは自社で使い続けるミドルクラス機、Bは時間単位で借りるハイエンド機。
以降は初期費用・月額・必要な知識・品質・規約・データの扱いで比較する



向く用途の目安: 画風固定の量産・機密性が高い案件はA、初期投資をかけずにAを試したい場合はB、少量～中量でスピード重視の案件はC(4章の比較表も参照)

8つの観点で3択を比較する

観点	A. 手元PC RTX 5060 Ti 16GB	B. クラウドGPU RTX4090	C. 生成サービス API/サブスク
初期費用	約10.7万～26.9万円 [出典15]	0円(登録のみ)	0円(登録のみ)
月額(月1,500枚)	約42円	約1,334円	約31,557円(従量) 約4,710円(定額)
機材・知識	GPU搭載PC・コマンド・障害対応	Aと同じ操作知識 ハード管理不要	ブラウザ/APIキーのみ
生成の手間	構築・導入・障害対応は自前	Aと同じ構築 起動停止はWeb/API	プロンプトを送るだけ
品質(160モデル中)	124～156位 最上位から300pt以上下	ローカルと同水準	最上位級(1～11位)
商用規約	モデルにより異なる	Aと同じ	各社規約を確認
データ	手元完結	海外サーバー経由	各社サーバー送信
向く用途	画風固定の量産・機密案件	初期投資なしでAを試す	少量～中量・速度重視

商用利用の可否は「モデル次第」—— 無条件で使えるライセンスは無い

モデル	ライセンス	商用利用の条件
FLUX.1 [schnell]	Apache-2.0 [出典2]	追加の許諾・課金は不要。著作権表示とライセンス文の保持が条件
Stable Diffusion XL 1.0	OpenRAIL++ [出典5]	用途ベースの禁止事項を守れば商用可。下流利用にも引き継がれる
FLUX.1 [dev]	非商用ライセンス [出典3]	対価が発生する用途は不可。商用利用はBlack Forest Labsへ申請
Stable Diffusion 3.5 Medium	Stability AI Community License [出典6]	年間収益が一定額を超えなければ商用無償。超える場合は別途契約(原文要確認)

これは事実の提示です。

自社の利用形態がどの条件に当てはまるかは、必ず各社の規約原文を確認したうえで判断してください。
本レポートは法的助言ではありません。

5-7

品質・費用試算・リスク

品質差と費用差を分けて見たうえで、試算の外側にある運用リスクまで確認する。

5

品質

160モデルのElo比較

6

費用試算

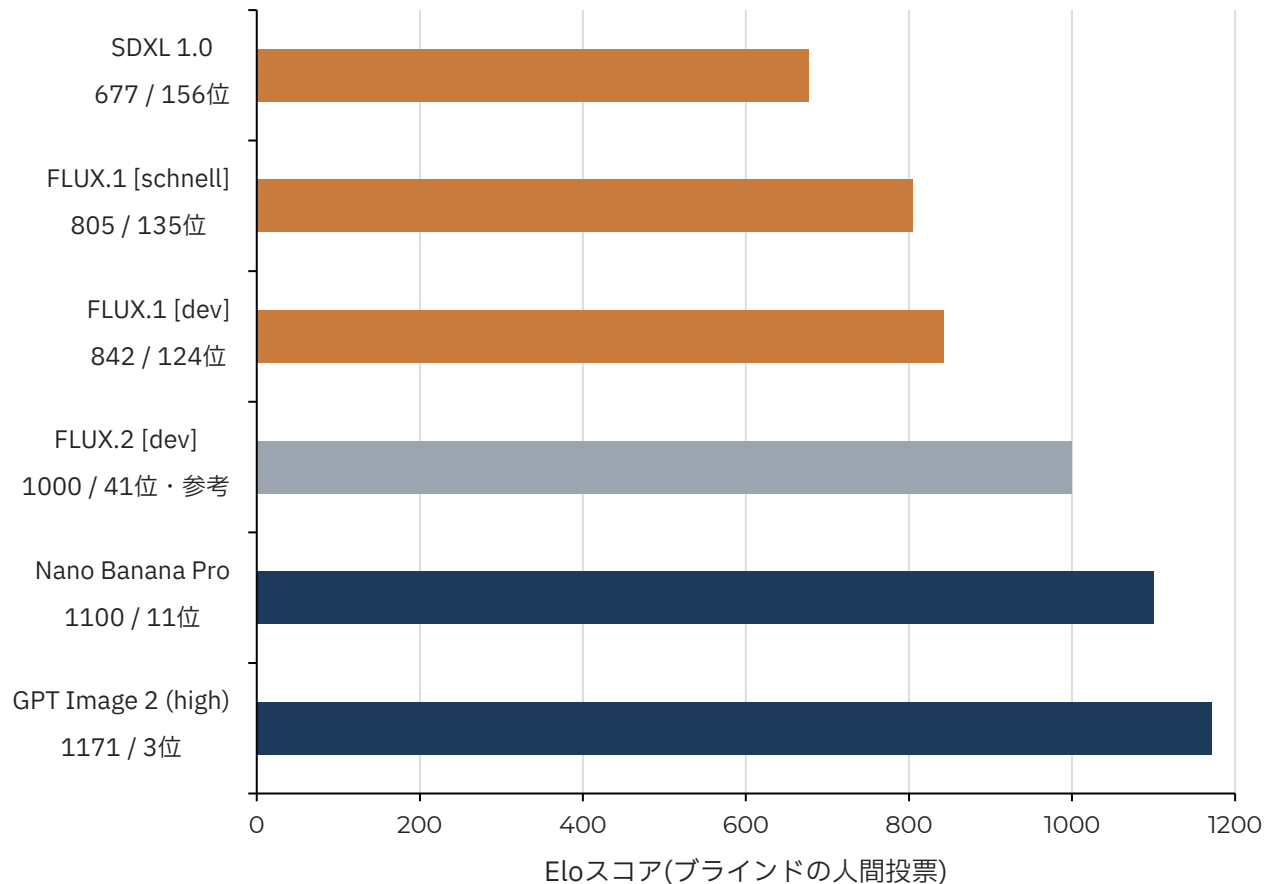
50/300/1,500枚と224枚

7

リスク

価格・障害・安全・為替・規約

手元で動くモデルは、160モデル中124~156位に集中する



日本語文字入れは未確認

画像内への日本語文字入れは、信頼できる定量比較を見つけれなかった。
LP・チラシ等は着手前に少量のサンプル生成で精度確認を推奨

棒の色区分

クラウド 参考 手元

このランキングは「素のプロンプトからの生成一般」への好みの集計。
同一キャラクターを同一画風で継続生成する軸は別評価が必要

画像生成モデルの品質ランキング(ブラインドの人間投票、掲載モデル160件、2026-09-21確認)[出典8]

1枚あたりの費用はローカル約0.03円・従量約21円

前提

- 電気料金: 1kWhあたり31円(地域差26~41円)[出典13]
- 為替: 1ドル=157円(2026-09-21時点)[出典17]
- 手元PC(RTX 5060 Ti 16GB): 消費電力180W[出典14]・生成時間18秒/枚[出典18]
- 手元PCの初期費用は約10.7万~26.9万円[出典15]
- クラウドGPU(RunPod RTX4090)の時間単価は0.34ドル/h[出典11]
- クラウドGPUの生成時間は60秒/枚(仮置き・未確認)
- これらはすべて仮定を含む試算であり、実測ではない(2章の調査の限界も参照)

計算式

A. $0.180\text{kW} \times (18\text{秒} \div 3600) \times 31\text{円} \times \text{枚数}$
 $\approx 0.028\text{円} \times \text{枚数}$

B. $(0.34\text{ドル} \times 157\text{円}) \times (60\text{秒} \div 3600) \times \text{枚数}$
 $\approx 0.89\text{円} \times \text{枚数}$

C-1. 1枚0.134ドル($\approx 21.04\text{円}$) $\times \text{枚数}$ [出典9]

C-2. 月額30ドル($\approx 4,710\text{円}$)固定 [出典10]
上限: Fast GPU月15時間

計算はスクリプトで実行し、手計算の転記はしていない。

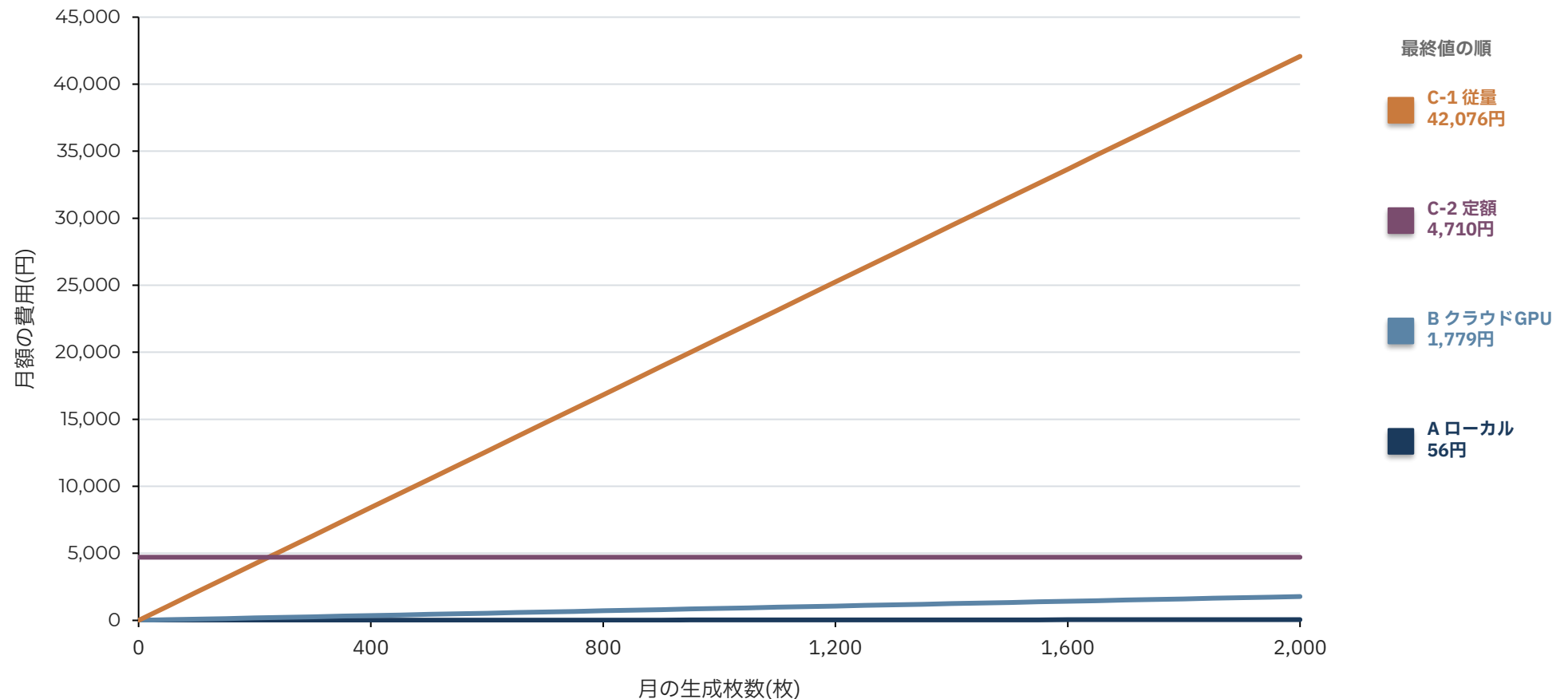
従量課金と定額の分岐点は月224枚

選択肢	月50枚	月300枚	月1,500枚
A. ローカル(電気代のみ)	約1円	約8円	約42円
B. クラウドGPUレンタル	約44円	約267円	約1,334円
C-1. 従量(Nano Banana Pro)	約1,052円	約6,311円	約31,557円
C-2. 定額(Midjourney Standard)	約4,710円	約4,710円	約4,710円 (上限超過の可能性)

224枚 —— 月あたり生成枚数がこれを超えるとMidjourney Standard(定額4,710円)の方がNano Banana Pro(従量課金)より安くなる(4,710円÷21.038円/枚=223.9枚。
Fast GPU時間の上限内であれば)

生成1枚あたりの限界費用はローカル・クラウドGPUレンタルがほぼ無視できる水準(1円未満～1円程度)。
API課金型は1枚21円前後(Nano Banana Proの場合)かかり、枚数が増えるほど差が開く

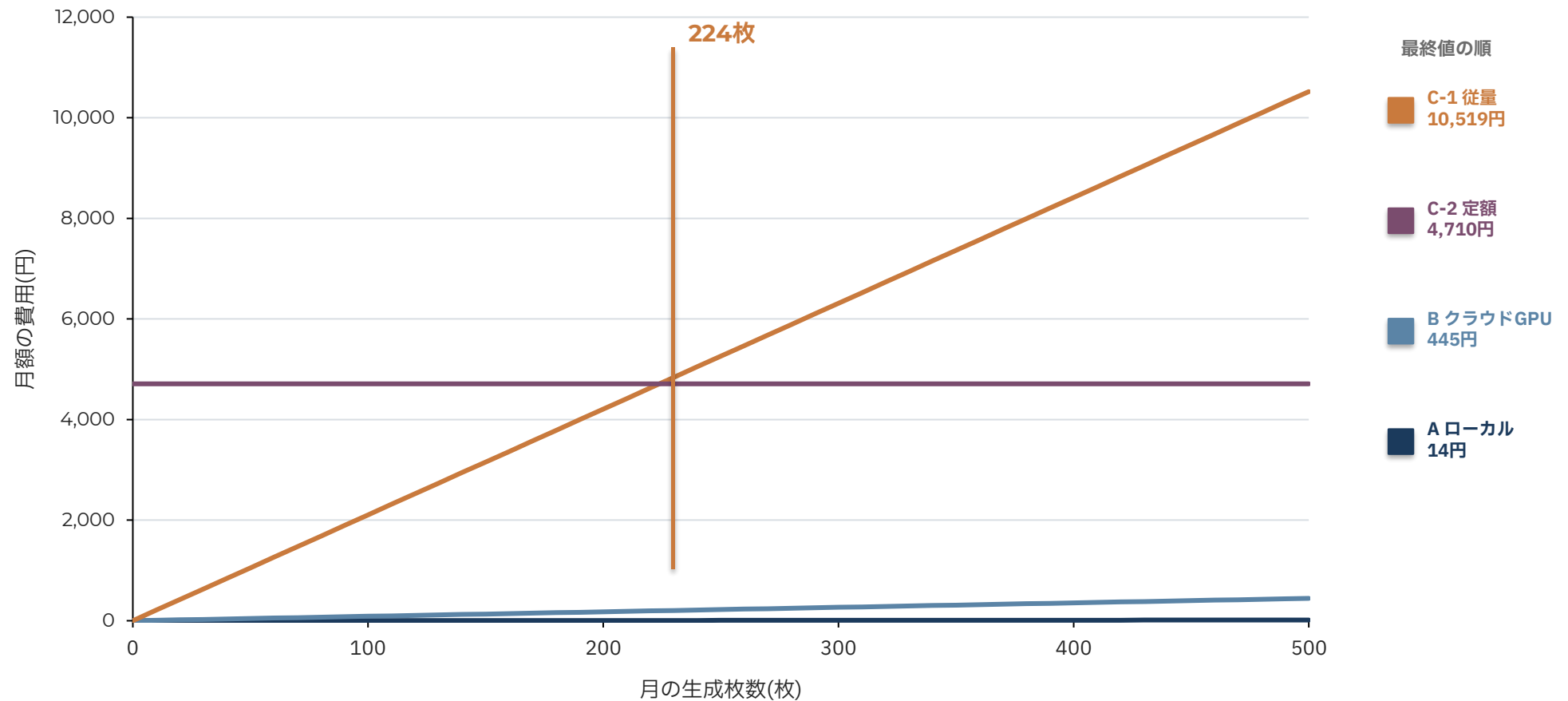
月0~2,000枚の全体では、費用の開きが一目で分かる



ローカルGPU初期費用の回収枚数(対Nano Banana Pro差額21.04円と0.03円の差≒21.01円) —— 低位(約10.7万円)で約5,090枚(月1,500枚ペースで約3.4か月)/高位(約26.9万円)で約12,790枚(同約8.5か月)。
運用の手間・人件費は含まない

交点(月224枚)は次ページの拡大図で示す

拡大(0~500枚)で見ると、224枚が交点



C-1(従量課金)とC-2(定額)の交点は約224枚($4,710円 \div 21.038円/枚 \approx 223.9枚$)

費用試算の外側にある5つのリスク

1 GPU価格の変動リスク

2026年はDRAM・VRAM価格が前期比ほぼ2倍に高騰と報道[出典16]。RTX 5060 Ti 16GBは2026年8月24日時点で106,869円～268,800円[出典15]。
発注直前に確認

2 障害対応が自前になる

生成が真っ黒な画像になる、処理が固まって応答しなくなる等の不具合が報告されている。
原因の切り分け・再起動判断は利用者側

3 拡張機能のセキュリティ

ComfyUIカスタムノードは任意コード実行が可能。
配布元を限定し、
認証なしで公開しない

4 為替変動

サービス・GPUレンタルは多くがドル建て。
円換算コストが変動

5 規約は変わりうる

価格・利用条件は随時改定。
契約前に最新ページを確認

導入判断までの実務手順と、本レポートの確認レベル

最初の1週間

- 1** **1～2日目** 生成サービスで3種類ほど試し、品質基準と日本語文字入れ精度を確認
- 2** **3日目** クラウドGPUでComfyUIを立ち上げ、FLUX.1 schnell等と比較
- 3** **4～5日目** 比較結果から主軸を仮決定。品質不足なら生成サービスを継続
- 4** **6日目** GPU最新価格、または想定枚数から月額を再試算
- 5** **7日目** 判断結果を社内共有し、本格導入を決定

このレポートの確認レベル

- 1** **一次情報で確認**
ライセンス条文、Google・RunPod公式価格、GPU公式仕様値
- 2** **二次情報の一致で代替**
Midjourney料金は独立した2つの二次情報源が一致
- 3** **未確認・仮定と明記**
実測値、日本語文字入れ定量比較、GPU確定価格

本レポートは、生成AIによる調査・下書きの支援を受けて作成しました。
事実の確認と最終的な内容の判断は、制作者が行っています。

出典一覧(1/2) ―― すべて2026年9月21日にアクセスして確認

#	内容	URL	確認できたこと
1	ComfyUIのHTTP API(/prompt・/history・/view等)とWebSocket通知	https://docs.comfy.org/development/comfyui-server/comms_routes	ワークフロー投入・履歴取得・画像取得・進捗通知のエンドポイントが公式ドキュメントに記載されていることを確認
2	FLUX.1 [schnell] のライセンス	https://huggingface.co/black-forest-labs/FLUX.1-schnell	「apache-2.0」ライセンスで、個人・研究・商用いずれの用途にも利用可と明記(著作権表示・ライセンス文の保持は条件)
3	FLUX.1 [dev] のライセンス	https://huggingface.co/black-forest-labs/FLUX.1-dev/blob/main/LICENSE.md	非商用目的(対価が発生しない利用)のみ無償。商用利用はBlack Forest Labsへの申請が必要と明記
4	FLUX.1 のQ4_K_S GGUF量子化版のファイルサイズ・実用VRAM(背景情報)	https://localaimaster.com/blog/flux-vram-requirements-by-gpu	ファイルサイズ約6.8GB、実用VRAM「約6-8GB」と記載(第三者記事、実測値かは記載なし)
5	SDXL 1.0 のVRAM要件・ライセンス	https://willitrunai.com/image-models/sd-xl-1-0	FP16・1024×1024で「8.0 GB」、ライセンス表記「openrail++」。用途ベースの禁止事項を守れば商用可。下流利用にも引き継がれる
6	Stable Diffusion 3.5 Medium のVRAM要件・ライセンス	https://willitrunai.com/image-models/sd-3-5-medium	FP16で512×512「9.7 GB」・768×768「9.8 GB」・1024×1024「10.0 GB」、ライセンス表記「stability-community」
7	SDXL 1.0 base checkpoint の実ファイルサイズ(背景情報)	https://huggingface.co/stabilityai/stable-diffusion-xl-base-1.0/blob/main/sd_xl_base_1.0.safetensors	ファイルサイズ「6.94 GB」と記載
8	画像生成モデルの品質ランキング(ブラインドの人間投票、Elo)	https://artificialanalysis.ai/image/leaderboard/text-to-image	全160モデル掲載。GPT Image 2(high)Elo1171(3位)、Nano Banana Pro(Gemini 3 Pro Image)Elo1100(11位)、FLUX.2[dev]Elo1000(41位)、FLUX.1[dev]Elo842(124位)、FLUX.1[schnell]Elo805(135位)、SDXL 1.0 Elo677(156位)を確認。「FLUX.1[dev]」と「FLUX.2[dev]」を混同しないよう行のラベル表記そのまま再確認済み
9	Google Gemini画像生成モデルの価格(公式)	https://ai.google.dev/gemini-api/docs/pricing	Nano Banana Pro(Gemini 3 Pro Image)は1枚0.134ドル(1K/2K)・0.24ドル(4K)。Nano Banana 2(Flash Image)は1枚0.067ドル(1K)と記載

出典一覧(2/2)

#	内容	URL	確認できたこと
10	Midjourneyのプラン料金	公式ページ(https://www.midjourney.com/pricing 、 https://docs.midjourney.com/docs/plans)はいずれも自動取得では403エラーとなりアクセス不可。二次情報2件で相互確認： https://www.vendr.com/marketplace/midjourney 、 https://www.eesel.ai/blog/midjourney-pricing (最終更新2026年6月5日)	両ページとも一致: Basic \$10/月(年払い\$96/年)、Standard \$30/月(年払い\$288/年)、Pro \$60/月(年払い\$576/年)、Mega \$120/月(年払い\$1,152/年)。Standardの場合Fast GPU時間は月15時間。公式一次情報ではない点に注意
11	クラウドGPUレンタル(RunPod)のRTX 4090 時間単価	https://www.runpod.io/gpu-models/rtx-4090	Community Cloud「\$0.34/hr」、Secure Cloud「\$0.74/hr」と記載
12	OpenAI画像生成モデルのトークン単価(公式・参考情報、費用比較には不使用)	https://developers.openai.com/api/docs/pricing	gpt-image-2: Standard料金でText input \$5.00/Image input \$8.00/Output \$30.00(いずれも100万トークンあたり)。1枚あたりの円換算は解像度・画質設定により変動し、二次情報間でも解釈が一致しなかったため、本文の費用比較には採用せず参考情報に留めた
13	電気料金の全国平均単価	https://selectra.jp/energy/electricity/price-per-kwh	全国平均の目安「1kWhあたり31円」、地域別で約26円(関西電力)～約41円(北海道電力)の幅があると記載
14	RTX 5060 Ti 16GB のTDP(消費電力、公式)	https://www.nvidia.com/en-us/geforce/graphics-cards/50-series/rtx-5060-family/	「Total Graphics Power (W): 180」と記載(NVIDIA公式仕様ページ)
15	RTX 5060 Ti 16GB搭載グラフィックボードの実勢価格	https://tabulog.jp/gpu-drop-in-price/	「RTX 5060 Ti (16GB)」の節に、最安値106,869円(ASUS)～最高値268,800円(GIGABYTE)と記載。同ページの「RTX 4060 Ti (8GB)」節は別数値(最安84,800円～最高173,248円)で、RTX 4060 Ti(16GB)の節はページ内に存在しないことを節見出しの全列挙で確認
16	2026年のGPU・VRAM価格高騰の背景	https://www.nichepcgamer.com/archives/nvidia-and-amd-plan-to-raise-bundle-prices-for-gpu-and-vram-in-2026.html 、 https://semi-connect.net/dram-price-surge-2026-cause-forecast/	HBM生産へのウェハー集中により汎用DRAM・VRAMの供給が構造的に減少し、価格が前期比で大幅に上昇したと報じられている(複数メディアで報道内容が一致)
17	為替レート(USD/JPY)	https://tradingeconomics.com/japan/currency	「157.192」(2026年9月21日時点)と記載。本文・試算では157円に丸めて使用
18	RTX 5060 Ti 16GBでの画像生成時間の目安	https://www.compute-market.com/blog/rtx-5060-ti-vs-5070-ti-local-ai-2026	「Flux(1024×1024、25ステップ): ~18s per image」「SDXL 1024×1024(20ステップ): 6.2 it/s」と記載。ページ自身が「Flux and ComfyUI times are community-reported averages」(コミュニティ報告の平均値であり実測室内ベンチマークではない)と明記している

未確認: Midjourney公式は403。OpenAIの1枚単価は不一致。GPU実測値・RunPodの60秒・日本語文字入れ精度・上限超過時の具体額は未確認。

ポर्टフォリオ用の架空の依頼に対する制作例です。実在する企業・人物とは関係ありません。